

球を投げて、自分で空振りしていた風があつて、我ながらおかし  
い。

四月七日

十二時建築学研究所の件で会合。十三時教室会議十五時半迄。  
赤坂氏芸術学校教授就任あいさつ。十八時新大久保駅前近江屋に  
て東大難波先生と久し振りに会う。十九時若松氏何故か出現。近  
江屋会合も定着してしまつたようだ。難波和彦氏は相変わらずお  
元氣のようだった。安心する。二〇時過修了。研究室に電話する  
も誰も出ない。良い事だ。何しろ、私自身が居ないのだから、コ  
レワ仕方の無い事ではある。只今、二〇時半京王線車中。世田谷  
村に戻る途上。

四月八日

昨夕の難波和彦氏との会合で、氏は箱の住宅シリーズの名称を  
変えると言明された。皆、色んな戦術をこらしているのだと痛感  
したが、戦術の転換は戦略の骨格があつて、初めて生きるのは必  
定であり、それに対する視界は私共々、霧の中に在り続けている  
感がある。「批評と理論」 技術と歴史への研究会の転換も又、  
その風がある。頑張る時代ではないのだろうか、この点だけは少  
し気合いを入れる必要があると考えた。十一時研究室。石井君と  
打合わせの予定。

十三時長野県上田、幸和建設来室。十四時半軽井沢O氏来室。  
アトリエ+住宅の相談。十八時過、渡辺、野本と大学周辺の桜の  
花を観る。野本とは仲々会えなくなるので、それなりのいささか  
大時代めいた「花」の話などしたのだが、全て空振り。自分で